

[研究ノート]

トバイアス・オーガスタス・マティ の活動

鈴木 麻里

はじめに

トバイアス・オーガスタス・マティ Tobias Augustus Matthay (1858-1945) は、1903年から1939年までの間に、33のピアノ演奏に関する著書を出版した、教師、著述家、ピアニスト、作曲家である。先行研究ではマティの提示した理論に関する論は見られたが、出版以前に焦点を当てたものが見られない。そのため本論ではマティが最初の著書『タッチの動作』*The act of touch in all its diversity* (Matthay, 1903) を出版するまでの経緯を明らかにするため、まずはマティの活動の変化を整理する。

1. トバイアス・オーガスタス・マティについて

マティは1858年にロンドンで生まれ、1871年にロイヤル・アカデミー・オブ・ミュージック The Royal Academy of Music¹⁾ (以下、R. A. M.) に入学した。その際、スタンダール・ベネット Sterndale Bennet (1816-1875) の奨学金を受けている。R. A. M. ではベネットのクラスで作曲を受講し、他にピアノを学んだ。1876年から1925年までの間に、R. A. M. のピアノ教授助手、ピアノ副教授、作曲副教授、ピアノ教授を務めている。1884年にはロンドンのピカデリー Piccadilly にあるプリンス・ホール Princes' Hall にて最初のピアノリサイタルを行い、1900年にはマティの私設のピアノ学校であるトバイアス・マティ・ピアノ学校 The Tobias Matthay Pianoforte School (以下、T. M. P. S.) を創設した。T. M. P. S. の場所はウィンポール・ストリート 96番地 96 Wimpole Street で、入学の対象および年齢制限はない。次いで1903年に最初の著書である『タッチの動作』を出版した。1925年にR. A. M. を退職後は、ヘーズルメア Haslemere 近郊の自宅を拠点としながら、T. P. M. S. で指導を続ける傍ら執筆活動を続けた。この自宅はサリー州 Surrey ヘールズメアの町中心部から南下した、マーレイ・コモン Marley Common という丘周辺に建ち、この場所をマティはハイ・マーレイ High Marley と名付けた。1945年に自宅で亡くなっている。

2. マティの活動

2. 1 作曲活動

マティは1871年にベネットの奨学金を受け、作曲のクラスで学び、同時にピアノのクラスでも学んだ。マティの作曲作品は、ピアノ曲が45曲、ピアノとバイオリンのための曲が1曲、チェロとピアノのための曲が1曲、歌曲が2曲、ピアノ四重奏が1曲、ピアノ協奏曲を1曲とそのオーケストラパートを第二ピアノのために編曲したものがある。1880年にピアノ教授になるまでの間、マティは作曲に力をいれていた(Jessie, 1945)²⁾。各作品の作曲年は不明である。

2. 2 演奏活動の記録

1844 年創刊の月刊雑誌『ミュジカル・タイムス』*The Musical Times and Singing Class Circular* の記録、およびマティの妻、ジェシー・ヘンダーソン・マティ Jessie Henderson Matthay (s. d. -1937) が書いた、『トバイアス・マティの生涯と作品』*The life and works of Tobias Matthay* (Jessie, 1945) のコンサートプログラムの記載などから、マティとマティの生徒による演奏会の記録を読み取ることが出来る（表 1 参照）。本論では演奏会の内容を以下のように分類した。①マティが作曲した作品をマティ自身が演奏した。②マティが作曲した作品をマティの生徒・知人が演奏した。③マティ以外の作曲者の作品をマティが演奏した。④マティ以外の作曲者の作品をマティの生徒・知人（作曲者本人以外）が演奏した。⑤マティ以外の作曲者の作品を作曲者本人が演奏した。以上の 5 分類である。マティの作品をマティ自身とマティの生徒以外の、第三者的立場の人物が演奏したという記録は、マティの生没年間（1858-1945）の『ミュジカル・タイムス』および『トバイアス・マティの生涯と作品』に於ける記録では見られなかったため、以上の 5 分類とした。演奏会の記録を見ると、年が進むにつれてマティ自身が演奏することが少なくなり、生徒の活動が目立つようになる。

2. 3 執筆活動

マティが最初に執筆活動を精力的に始めたのは 1884 年頃で、R. A. M. の雑誌『序曲』*The Overture* の執筆であったという記述が、『ミュジカル・タイムス』および『トバイアス・マティの生涯と作品』に見られるが、内容の詳細は不明である。この雑誌『序曲』は、1880 年に R.A.M. の生徒たちを対象にマティら R. A. M. の教師が共同制作し、フレデリック・コーダー Frederic Corder が出版した雑誌である。その後 1903 年に『タッチの動作』が出版されるまで著書の存在に関する記述が見られなかったため、『タッチの動作』の出版以降のマティの著書を表 2 にまとめた。

『タッチの動作』¹⁶⁾の出版後、『ピアノ奏法の基本原則』*The first principles of pianoforte playing* (Matthay, 1905)¹⁷⁾が『タッチの動作』からの引用をまとめ、学校で使うために再構成した本として出版された。この際、「学習者への手引き」“Directions for Learners.”と、「指導者への助言」“Advice to Teachers.”という 2 項目が追加された。『弛緩の技法』*Relaxation studies* (Matthay, 1905) は、『タッチの動作』と『ピアノ奏法の基本原則』で触れた、ピアノ技術における筋肉の正しい使い方の学習、継続、指導のための練習方法や課題を具体的に示したとマティ自身が序文で述べている。同様に『ピアノ技術指導における助言』*Some commentaries on the teaching of pianoforte technique* (Matthay, 1911) は、『タッチの動作』と『ピアノ奏法の基本原則』を補足説明するための本として出版された。これらのように、後に引用や要約、補足説明などをまとめた本として出版されたものは、『指の独立のための 9 段階』*The nine steps toward finger individualization* (Matthay, s. d.) があり、これは『子供のためのピアノ奏法の初步』*The child's first steps in pianoforte playing* (Matthay, 1912) と、『ピアニストの最初の音楽作り』*The pianist's*

first music making (Matthay, s. d.) の補足説明と、それまでに出版してきた本の中で述べてある技術的な問題についての要約を書いたものである。

『音楽の解釈』 *Musical interpretation* (Matthay, 1913) は、『タッチの動作』や、『ピアノ奏法の基本原則』で述べた考え方と、1909 年に行った一連の講義および 1909 年から 1910 年にかけて行った講義をまとめたものである。マティはこの本の中で、弛緩の技法は緩みきった腕で演奏するということを意味しているのではないことなど、自分の考えが誤解されて他の理論家や演奏家に応用されていると指摘しており、このような誤解が多く見られるようになったが故に、マティ自身の考えを整理した本を出版することとなつたとも述べている。

現存する資料の中で楽譜資料（マティの作曲作品の出版楽譜ではなく、練習曲やマティの指導方法を述べるために書かれたもの）に該当するものは、表 2 の備考欄に「楽」と示した。前書きや曲の間に楽譜を使用する場合の教師への助言や、練習方法なども書かれている。また、マティが各地で行ったピアノ演奏に関する講義をまとめ、本として出版されたものは表 2 の備考欄に「講」と示した。

2. 4 公開講義活動

前項でも触れたように、マティは R.A.M. や T.M.P.S. で授業を行う他に、公開講義も行っていた。『ミュジカル・タイムス』 および『トバイアス・マティの生涯と作品』に於ける記録からわかる講義をまとめたものを表 3 に示した。

1911 年 2 月 18 日の講義から 1919 年 5 月 17 日の講義まで 7 回の講義が行われていたことが記録から分かった。これらは主に各地の教師組合 Teachers' Association の会議の際に行われた講義や、そのメンバーのために開かれた講義である。1919 年 5 月 17 日に行われた「子供のための英国音楽」 “British Music for Children” という題目の講義では、デジレ・マックエヴァン Miss Désirée MacEwan が多くの実例を演奏し、マティが講義を行った。また、『記憶と演奏』の序文によれば 1919 年から 1910 年にかけて全 6 回の講義が行われていたようであるが、不明な部分が多いため今回は表 3 には加えていない。

3. 結論

マティの作曲活動・演奏活動・執筆活動・公開講義活動という 4 種類の活動を見ると、年代毎にマティ自身の活動の中心が変化してきたことがわかる。演奏活動においては、1880 年代から 1890 年代まではマティ自身が演奏会で演奏する場合が見られ、マティの生徒や知人が演奏会で演奏する場合でも、マティ自身も数曲は出演をしていた。しかし 1900 年代になると、マティ自身は演奏をせず、マティの生徒たちによる演奏会が目立つようになる。作曲活動においては、詳しい曲名と作曲年などが不明であるが、1876 年にマティがピアノ教授助手に就任したことから、それ以降は作曲活動よりもピアノ演奏活動やピアノ指導が中心となり、1900 年には T.M.P.S. を設立し

て、指導の場も拡大している。執筆活動では、『タッチの動作』の出版以降、ピアノ演奏に関する執筆を続けた。著書の内容も、それまでに述べてきた理論のまとめとなる本や、ある特定の部分（前腕の回転や弛緩についてなど）に焦点を当てた本など、より詳しく述べられたものを次々に出版している。更に、1911年からは各地で公開講義も行っている。また、1938年頃からはピアノ教則本と指導者に対する助言が連動した著書が見られるようになる。つまりマティの活動は作曲活動からピアノ演奏活動へ、そして執筆や講義を通じたピアノ指導者としての活動へと移行している。

4. 終わりに

本論ではマティが作曲やピアノ演奏を中心に活動した時期から、教育者としての活動を中心となつた時期への変化の過程を探ってきた。また調査を進めるにあたり、これらの変化の過程において、マティの周囲にはアントン・ルービンシュタイン Anton Rubinstein (1829-1894)、ハンス・フォン・ビューロー Hans von Bülow (1830-1894)、オーガスト・マンス August Manns (1825-1907) らの存在が重要な役割を担っていたであろうことが浮上した。今回明らかになった事以外に、マティがどのような過程を踏んで著書を出版したのか、教育者としての道を辿つていったのかという部分に関する調査は今後の課題としたい。

注

- 1) ハノーヴァー・スクエア Hannover Square、テンダー・ストリート Tender Street に 1822 年創設。
1912 年にマリレボーン・ストリート Marylebone Street に移転した。
- 2) Jessie Henderson Matthay の著書を示す場合に (Jessie, 1945) と示す (Tobias Matthay と区別するため)。この本はジェシーが 1937 年に亡くなった後に出版された。
- 3) 1880 年マティが R.A.M. のピアノ教授助手に就任した祝賀の演奏会で、初の公的な演奏会であった。
独唱曲はウェーバー Weber⁴⁾ と J.W. エリオット J.W. Elliot とアーサー・サリバン Arthur Sullivan (1842-1900) の作品が 1 曲ずつで、他 4 曲はマティが作曲した歌曲であった。
- 4) Cello obligato はマティが作曲したものを演奏した。
- 5) ロンドンでの最初のリサイタル。マティ、グノー、シューベルトの歌曲（計 3 曲）も演奏された。
- 6) ベヒシュタイン・ホールは 1901 年ベヒシュタイン社の隣に設立。1914 年にウィグモア・ホール Wigmore Hall と名称変更された。
- 7) 1884 年 11 月 28 日の演奏会の後、1884 年日付不明の演奏会が 2 度開かれた。
- 8) マティ作曲の 3 つの小品も演奏された。マティがショパンのノクターンを演奏途中で忘れて、ショパンのエチュードを演奏したという記述から③に分類する (Novello (ed.), 1887)。
- 9) 会場所在地はクララム Clapham である。マティの生徒らが出演し、歌曲とピアノ独奏、二重奏が演奏された。演奏された 22 曲のうち、マティの作曲作品が 1 曲、生徒の作曲作品を本人が演奏したのは 2 曲（2 人）であった。

- 10) 後のマティの妻ジェシー・ケネディ Jessie Kennedy も歌曲を歌った(Novello (ed.), 1893)。
- 11) マティが作曲した歌曲《バラの便り》 "The Rose Massage" も演奏された。
- 12) このマティの生徒らによる演奏会は 1937 年まで継続的に行われた(Jessie, 1945)。ジェシーが『トバイアス・マティの生涯と作品』 を書いたのが 1937 年までの時点では 1908 年から行われている演奏会が継続しているということ。
- 13) 入場料は無料だが募金を募り、集まった募金はベルギー人の救援金¹⁴⁾として使われた。
- 14) 1839 年ロンドン条約でイギリスがベルギーの中立を保障。 1914 年に第 1 次世界大戦が勃発後、ドイツがベルギーに侵略したため、イギリスがドイツに対し宣戦布告。以上の背景からベルギーへの募金が行われたと推測する。聴衆は 600 人程集まり募金総額は約 21 ポンドであった。曲目や使用ピアノは不明である。
- 15) 1915 年 7 月 14 日の演奏会では、 T.M.P.S. の質が高いと評価された(Novello (ed.), 1913)。
- 16) ページ数 328 ページ。『ミュジカル・タイムス』の 1904 年 4 月号では、精神と身体と一般的な自然の法則の関係における原理の考えが根底にあり、マティはこの本によってピアノ教育者としての高い地位を獲得したと好評されている。一方で、 1904 年 9 月 28 日付けの『ニューヨーク紙』では、マティの文章は冗長で、教育的な価値はあるものの、文章や言葉が難解であるとされている。
- 17) ロングマンズ Longmans から出版された他に、イタリア語の翻訳本 (Torino の S.T.E.N. から出版) と、ドイツ語の翻訳本 (Leipzig の Gebrüder から出版) があるが出版年は不明である(Jessie, 1945)。
- 18) それぞれ、アメリカ向け出版は、ボストン音楽社 The Boston Music Co から発売された。
- 19) アメリカ向け出版は、 B.S. ウッド社 B.S. Wood Co. から発売された。
- 20) 全 6 回の講義のうちの第 5 回目の講義をまとめたものである。生徒を指導するときの心理学について教師に対して行われた講義で、 T.M.P.S. の教師養成コースでも講義されていた。
- 21) アメリカ向け出版は、カール・フィッシャー社 Carl Fischer Inc. から発売された。
- 22) 41 曲の練習曲と正しい練習方法の解説が書かれている。前書きには教師に対して指導時の注意点などが書かれ、本文はハンマーのモデルや腕の写真を用いて説明している。音名を覚えるためのカードも付録で用意されている。これはピアノの黒鍵部分に穴があいたカードで、鍵盤の上に置くことが出来る。音名が書かれた白鍵盤が 12 個、黒鍵（穴）が 8 個書かれている。
- 23) 35 曲の練習曲と曲に付けられた題に合った絵が掲載されている。後続は第 7 卷まであるがマティ単独の著は第 1 卷のみである。

主要参考文献表

MATTHAY, Jessie Henderson.

1945 *The life and works of Tobias Matthay*, London : Boosey & Hawkes, Ltd..

MATTHAY, Tobias Augustus.

1903 *The act of touch in all its diversity*, London : Longmans.

- 1905 *The first principles of pianoforte playing*, London : Longmans.
- 1908 *Relaxation studies in the muscular discriminations required for touch, agility and expression in pianoforte playing*, London : Bosworth & Co..
- 1913 *Musical interpretation ; its laws and principles, and their application in teaching and performing*, London : Joseph Williams, Ltd..
- 1926 *On Memorizing and Playing from Memory*, London : Oxford University Press.
- 1939 *First Lights on Piano-Playing*, London : Boosey & Hawkes, Ltd..
- 1940 *Approach To Music. Book I. "How do you do, Mr. Piano ?"*, London : Boosey & Hawkes, Ltd..
- NOVELLO, Alfred (ed.)
- 1870-1903 *The Musical Times and Singing Class Circular*, Vol.11-Vol.44, London : Musical Times Publications Ltd..
- 1904-1909 *The Musical Times*, Vol.45-Vol.50, London : Musical Times Publications Ltd..
- 1910-1946 *The Musical Times and Singing Class Circular*, Vol.51-Vol.87, London : Musical Times Publications Ltd..
- SADIE, Stanley ; TYRRELL, John (eds.)
- 2001 *2nd The new grove dictionary of music and musicians*, London : Macmillan Publishers Ltd..

すずき まり

お茶の水女子大学人間文化研究科人文学専攻博士前期課程修了。現在、お茶の水女子大学人間文化研究科比較社会文化学専攻博士後期課程在学中。

表1 Tobias Matthayに関する演奏会記録 (*The Musical Times and Singing Class Circular* Vol.21~87, および *The Life and Works of Tobias Matthay* より節本作成)

公演年/月/日	会場	内容	使用ピアノ	種別	備考	注
1880/5/14	Clapham Hall.	P.S.(1), So.(7), Du.(3), Tr.(2), Qu.(1).	Broadwood	①③④	7曲をマティが演奏。出演者はマティの学友。	3
1884/11/28	Princes' Hall.	P.S(8), So(3).	Bechstein	②③④	基本的に全曲マティの独奏。	5
1884/mm/dd	Aeolian Hall.	不明	不明	不明		7
1884/mm/dd	Bechstein Hall.	不明	不明	不明		6, 7
1887/3/17	Princes' Hall.	P.S.(1+x), So.(x), Du.(x). その他不明	不明	③+不明	リサイタルにもかわらず歌曲と二重奏あり。	8
1887/7/2	The Belmont Lecture Hall.	P.S.(16), So.(4), Du.(2).	Bechstein	②④⑤	First Public Invitation Recital と題されている。9	
1892/3/5	The Bow and Bromley Institute.	不明	不明	不明		
1893/1/23	The Royal Academy of Music.	20曲以上のマティの作品	不明	①②	具体的な演奏曲目名は不明。	10
1897/3/3	The Queen's (Small) Hall.	P.S.(5), So.(2+x)	不明	②④	マティのクラスの生徒5人出演。歌曲あり。	11
1908/summer	Bechstein Hall.	P.S.(25)	不明	②④	T.M.P.S.の生徒によるピアノリサイタル。	12
1915/6/16	Aeolian Hall.	不明。詩の朗誦あり	不明	不明	T.M.P.S.の卒業生も出演。寄付金あり。	13
1915/7/14	Bechstein Hall.	P.S.(1+x). その他不明	不明	⑤+不明	T.M.P.S.の生徒が自身の作品を演奏。	15
1916/7/12	不明	不明	不明	不明	T.M.P.S.の生徒によるピアノリサイタル。	
1916/7/14	不明	不明	不明	不明	T.M.P.S.の生徒によるピアノリサイタル。	
1916/7/20	不明	不明	不明	不明	T.M.P.S.の生徒によるピアノリサイタル。	

*1: 公演日が不明なものは、年のみを示した。

*2: 演奏会内容の略記:P.S.→Piano Solo, So.→Song, Du.→Duet, Tr.→Trio, Qu.→Quintet.

*3: 演奏会内容の括弧内の数字は、曲数を表す:例:P.S.(5)→Piano Solo が5曲演奏された。

*4: 演奏会内容の括弧内にxがある場合→曲数が不明であるが演奏された等の記述がある場合。

例:P.S.(x)→Piano Solo が演奏されたが何曲演奏されたか不明。

*5: 注の欄にある番号は、本文の注の番号に同じ。

- (1)マティが作曲した作品をマティ自身が演奏した場合。(2)マティが作曲した作品をマティの生徒・知人が演奏した場合。
- (3)マティ以外の作曲者の作品をマティが演奏した場合。(4)マティ以外の作曲者の作品をマティの生徒・知人(作曲者本人以外)が演奏した場合。
- (5)マティ以外の作曲者の作品を作曲者本人が演奏した場合。

トバイアス・オーガスタス・マティの活動（鈴木）

表2 Tobias Matthay の著書 (*The Musical Times and Singing Class Circular* Vol.44~87, *The life and works of Tobias Matthay*, 2ed. *The new grove dictionary of music and musicians* Vol.16 より鈴木作成)

出版年	題名	出版社	注	備考
1903	The act of touch in all its diversity.	Longmans, London.	16	
1905	The first principles of pianoforte playing.	Longmans, London.	17	
1908	Relaxation studies.	Bosworth&Co., London		
1911	Some commentaries on the teaching of pianoforte technique	Longmans, London.		
不明	The Principles of fingering, laws of pradalling.	Bosworth&Co., London		
1912	The fore-arm rotation principle : its application and mastery	Joseph Williams, Ltd., London	18	
1912	The child's first steps in pianoforte playing.	Joseph Williams, Ltd., London	18	
不明	The pianist's first music making.	Oxford University Press, London.		
不明	The nine steps toward finger individualization.	Oxford University Press, London.		
不明	Double-third scales : their fingering and practice.	Joseph Williams, Ltd., London	19	
不明	The T.M.P.S. practice triangle and card.	Joseph Williams and The Boston Music Co.		
1913	Musical interpretation.	Joseph Williams, Ltd., London	18	
1918	The Problems of Agility.	Oxford University Press, London.		
不明	Three psychology lectures.	Oxford University Press, London.		講
1921	On Method in Teaching.	Oxford University Press, London.		講
1923	Some Royal Academy Pianoforte Composere.	不明, London.		
1926	On Memorizing and Playing from Memory.	Oxford University Press, London.	20	講
1928	The Slur or Couplet of Notes.	Oxford University Press, London.		講
1931	An Epitome of the Laws of Pianoforte Technique.	Oxford University Press, London.	21	
1932	The Visible and Invisible in Pianoforte Technique.	Oxford University Press, London.		
1934	The Act of Musical Concentration.	Oxford University Press, London.		講
1937	On Colouring as Distinct from Tone-Inflection.	Oxford University Press, London.		講
不明	Four Daily Exercises.	Boosey & Hawkes, Ltd., London.		楽
1939	An Introduction to Psychology for Music Teachers.	不明, London.		
1939	Piano Fallacies of To-Day.	Oxford University Press, London.		
1939	First Lights on Piano-Playing.	Boosey & Hawkes, Ltd., London.	22	楽
1940	Approach To Music, Book I, "How do you do, Mr. Piano?"	Boosey & Hawkes, Ltd., London.	23	楽

*注の欄にある番号は、本文の注の番号に同じ。

表3 Tobias Matthay の公開講義 (*The Musical Times and Singing Class Circular* Vol.52~87, および *The life and works of Tobias Matthay* より鈴木作成)

開催年/月/日	開催場所	講義題目	開催団体・会議	備考
1911/2/18	Messrs. Broadwood's Room.	The Principles of Interpretation.	The Musical Teachers' Association.の会議にて	
1912/11/28	不明	On the teaching of the fundamentals of technique,	The Manchester Teachers' Association.の会議にて	
1912/12/9	不明	On the teaching of the fundamentals of technique,	The London Music Teachers' Association.の会議にて	11月28日の再講義
1915/1/30	Liverpool Branch.	The teaching of the fundamentals of pianoforte technique.	The Musical Teachers' Association.の会議にて	
1915/10/13	The Royal Academy of Music.	Rubato, the necessity of Analysis, and the nature of Rhythm.	記述なし	
1915/10/21	Manchester.	The Spreading of Chords' (in pianoforte playing).	Dr.Carroll's Teachers' Association.のメンバー向け	
1919/5/17	Bournemouth Winter Gardens.	British Music for Children.	記述なし	実演あり